

小精廬日誌

昭和八年九月以降

特別

14

1919

616

35

40

45

50

176881

小粉之屋日記

昭和八年九月以降

九月

一日

昨十年品の今日ハ大震災戦慄の日也。朝来池
兼の行を修む。文行巻を功を考物化五十
田押入十二時出急敷分特。粗飯を食
す。午後淡茶の観音を宴す。丸口ル。和
と膳を物入。昂也。田原く物くる。回考録

協合し未書午後ハ地葦の稿を修め終の候刻
止む法は海城後の秀を携卷二百十日
終日無事

二日

此朝来地葦の稿を修め、宇都宮真光よ
り伊市の葉子到来、午後僕心か散策、向未
本迄葦の稿を終め、真光く秀を遣ふ、初辰
支堆除除へき来河、睦合共思分此重後合
死〇五〇如河〇、深夜二時地宿あり

榎原製

三日

兩朝来地葦の稿を修め、終日地葦下、後頭
す、驛舟を来、初辰支堆を夜ゆ、二〇〇〇生
十田を来、夜来亦驛舟あり、乾土漸乾
池、未以池を満す、あき

四日

兩朝来地葦の稿を修め、昨夜朝の
湯入金老午田本の釣沼へ、更々九十日
間十二日二〇〇延びし畢す、仁多花一の稿

のり住せ山湯古殿の若方も四時了、午後侍
んで給生を歩く物と辨めて御し、終夜
懸風ありし

丑日

晴風、朝来随筆の原形を修む、余の馬琴
に就ての津浪をぬぐふ、東条海流今の旋流
講談列達、尾句淡あ来り、随筆の如
と交代、又の編入の下山鏡吉、英
文大日本、予の日本女性を載せんこと

榎原製

と清く流す、山田法心も流午後臥し七
於法を讀み時を移す、人を働かぬ後の
巻を辨ふ、外人、日本の女性を授けたるの事
と上の、巻を谷小波死去

二日

晴、秋氣満ち朝来清冷を受ふ、田村壯二
前月の協會館の刊子二十回交付、改上
弘島と注射を受く、大石理因と妻を感
為行地著、ふき打念を為す、至久一

冊より、そのうち最近出版の洋考教冊を焼
 く、出版部より出版二種、刊本、松
 堂考、店より其の出版に係る古典（稀配
 書のアアクリシレー）を物め、その二冊を
 室へて来る。午後四時、山田原の海の家を撤
 して、伊豆山、三時、山今館より、伊豆山、谷小
 波の森、儀に歸る、夜更に、伊豆山、谷小
 波の森、儀に歸る、夜更に、伊豆山、谷小
 波の森、儀に歸る、夜更に、伊豆山、谷小

七日

榎原製

頃、モダン日本社より、存稿、神来、下山、鎮吉
 二日本の女性、その授業記、その政文、その
 べき、原稿也、余の室のものを、その授業記、
 列達、十一時、文を付し、その出版、その後、伊豆
 是の来り、隨筆の稿を、終る、その新法を、授
 又、その稿、その

八日

所、朝来、隨筆の稿を、終の時、移す、午
 後、供して、文行巻を、その洋館、その用、堂

我々、送、黒漆抽子三枚外面皮の被せり、
至属外礼杖城三十餘點附属此條五十
目也

九日

朝来迄筆の箱を修む、十時の市印刷合
社の重役会と臨む、庄司に及ぶ新筆、午後
雜務を筆す、亦迄筆の原箱を教正理未
兵庫新武庫部物道打之儀、田底彦、
り未尚山湯大讀、今志と亦、来、
立て

榎原製

又、同を投す、

十日

日

朝来迄筆の箱を修む、出渡箱に、物を
納む、上印の爪月巻に、致し、午後、
筆の箱を修む、書同十色、俵存の為め、
表装を依頼、春成、今、札を印行す、
筆本日略々脱稿、塚茂大印、
脱筆、大不理、因、投簡

十一日

明和未始筆下の稿を修む、龜山筆三巻未織石の十
六羅漢寺古條幅を持来、中世未龍井上辰太郎
の記ありし山陽小幡を改く繪巻を求む、ふか
ふか、此のをも額金る五十圓に出す、あ部宣
くかま功あを額する、下山鎮巻前りの
海法筆記と持来、中央公倫るるる記
ありしもの(荒川竹志)宣傳方記、つき掃瀧
ま、神郡敬三の雜法源義津の十圓、
記念に一箇を定めす、五、一五事件海軍公判

榎原製

二枚を換察官三名を死刑三名に無期を死刑
他の六年と三年也、あ部宣くふく未書
且の押巻を求めしもの

十二日

明和句書あり、宗好二巻追加し、新巻、義
賀米一箇有、朝未始筆の稿を修む、改二献
書二箇有、大石理因有、西筆の稿本全
部を交付す、下山鎮巻二箇有、村松時
雄河部宣くふく未、あ部宣くふく酒を飲

みゆ所二時あり。二時、定業の正にあり

十三日

吃、森脇美樹、身法、神郡、設三、本、改、助
し、未、出、大、隈、熊、子、の、遺、志、に、據、り、金、五、万
田、大、隈、家、より、早、大、一、寄、附、と、聽、く、村、信
諸、推、に、投、り、附、に、午、後、三、時、女、子、大、學、に、在、り
塘、茂、大、一、の、告、別、式、あり、先、を、代、人、と、し、七、老
了、香、奠、十、回、持、参、美、本、影、攝、才、六、才、七
輯、配、本、余、の、坐、談、事、記、を、叙、め、り、書、誌、を、未

榛原製

五雜刊連

十四日

吃、服、部、嘉、香、ら、美、書、志、命、と、せ、外、出、三、紙、に
物、を、贈、り、淡、香、の、祝、言、を、書、し、午、時、を、其、ま
し、こ、ゆ、く、外、出、中、の、杉、井、西、久、物、類、出、札
と、定、の、日、あり、祝、部、と、り、り、り、大、隈、熊、子、の、自
の、言、行、を、記、す、る、事、を、自、ら、碎、紙、佛、と、し、四、紙、の、巻
紙、を、讀、む、夜、未、也

十日

雨一筋と大在理因入、郵送、口内御願の
平野内社田々を有、訪書、竹弓、梅、濃し、
ある、山田、山、心、波、口、献、去、余、の、恐、中、子、出、版
の、件、の、つ、き、来、日、午、後、開、と、得、と、瘡、舞、の
原、稿、と、スクラップ、ブック、と、収、め、他、日、の、用、に
供、出、於、此、と、著、し、夕、陽、に、利、る、。

十一日

時、中、洋、象、二、も、訪、訪、部、局、の、塩、坂、淡、次、郎、一

藤原製

らと梨果を貯る、来、の、坂、上、山、花、も、と、注、射
と、受、く、也、鱒、の、南、野、の、茶、の、花、并、に、外、科
無、械、を、示、す、休、に、木、佐、信、兼、此、の、玉、堂、今、ヤ、ン、バ、レ
この、傍、を、後、に、平、尾、賢、平、と、し、十、一、日、有、此、局、
於、て、其、叔、母、の、右、鉄、海、列、の、あ、あ、由、利、の、午、後、
難、法、と、淡、々、時、と、曼、々、す、塩、坂、に、あ、ら、は、た、る、

十七日

日

時、相、未、於、此、を、筆、す、山、林、望、三、才、の、う、塩、栗
中、の、田、者、故、に、就、て、語、つ、と、あ、る、平、尾、賢、平、と、

貨物等の取扱をいふことを定むるもの、模志一印として
廿七日自定を控へて、以て取扱の白字を控へて、
通判と定むる、十時出浴二三物を購へて口を控へ
町三浦とゆへ、不審り丹兵衛名身来、石丸
海軍少佐の日英必殺論を讀んじ時を移す、
石塚三郎とあゆ物を控へて

十八日

町内々崎心の中より、物、押直と托さる朝料
人某一函貯る、日英必殺論を讀んじ

榎原製

十九日

町日英必殺論を讀んじ、家ノ夫の編輯去田
弘来、金、客船を求む、流しと違ふ、午後
難法と控へ時を移す、早稲田大子と来、
河部宜と命と来、代、高木常七(兵庫志
村、長屋と鈴、茶平の關係、のきと外、本
在、坊中、名、二、夜来、四、内、五、一、立、市、件、陸、軍
側、被、失、十一、名、禁、制、四、年、と、判、決、求、刑、の、半、減、也

二十日

西、模、志、一、印、在、司、涉、み、前、日、新、来、二

三子ノ考ニ神皇正統記ノ成ノ新河原平
一ノ型葉ニ寄テ来ル。石橋親経四ノ自功
大橋外方ノ、即本名刺ニ與フ。龜山素三
未振平後亦押毫ニ時ヲ移テ、雅和
ヲ筆ナリ。

二十一日

兩朝未振記と筆す。中央公論記と未書。高
橋親経ノ利リテ尾賢平收存ノ錢貨梅列を
又、白木倉ノ古物印と云々今ニ臨ミ、日本橋而

ニ録シテ物々、尤物電氣親道今此ニ
山ノ古書ノ長主ト云々。又、日記中全
カ徳也。山ノ前田日記抄録シテ
山本豊次ノ必全而回ト送リ
来リ。今日白木倉ノ圖書市ニ外人ノ若
シ日本ニ関スル圖書類ヲ購入シ
時々、日記中今此ニ云々。又
山崎今ノ海濱今ニひく。横武航空仲依
あ連堅造。政述視察中ノ觀察殊
ニ十千八日就七二時開講演あり

二十二日

晴和氣好古雅... 葡萄園を定めてゐる。大石理田
余の逸草の目錄を先づして持参、京都金港を
出陣回沙致科書。余の逸草を春城養護中
「今の一命を堅絶せん」と詠し、新打出...
書とて流石を先づ、今朝の東京報の「予の
空の行記」は、法士の批評を掲載、栗林羊一
二編、田中解大徳、未、治、只、板、演、了、報
失を穿く、が、ロ、二、二、の日本、巡、因、江、中、川、町、田
庵、主、嘉、兵、衛、の、部、を、讀、む、十、一、時、之、外、出、

榎原製

九日、移し物を贈り、味差に致す、表り、
二、花、一、多、用、益、書、東、一、甚、甚、漢、風、三、堪、秀、夫
工、岩、橋、士、の、只、の、位、を、得、字、二、の、七、換、抄、状、未
日、初、六、文、三、十、九、日、

二十三日

秋登日

晴、堤、秀、夫、二、河、を、日本、回、考、彼、場、分、を、未
書、雜、録、を、著、す、ま、内、の、崎、心、三、郎、二、簡、本
尾、司、淺、水、余、の、逸、草、の、試、刷、を、お、来、り
亦、も、松、井、の、心、を、く、り、し、ま、は、功、の、り、き

定と付を此生の井、其考、函取、
其、古代、由来、

二十四日

日

晴、此部宜し、其、押巻を交付、相来家の
先、其、寄す、へき、原、形、を、伝、へ、九時、改、口、就
其、山、田、法、心、大、石、地、内、其、此、の、き、春
城、守、も、も、其、の、り、し、余、の、隨、著、代、解、録
このき、探、議、す、午後、七、家、の、先、の、原、形、を
此、口、が、二、二、日、未、遊、因、其、記、を、讀、み、

二十五日

晴、感冒の氣、味、あり、家、の、先、二、雪、田、の、今、其
一、命、を、授、す、服、部、嘉、香、日、後、が、口、二、二、の
此、因、記、を、讀、む、午後、七、温、山、柴、金、五、の、考
二、揚、す、

二十六日

晴、上、来、診、熱、を、檢、す、其、一、何、の、こ、き、注、射、を
施、す、其、一、瀨、一、馬、を、持、合、地、方、二、千、守、履、考
流、散、症、務、考、を、考、り、て、其、考、り、日、換、志、一、ら、

日行のき夜代の日定今ありと氣受又力又
儿例の如く是一時咳嗽、困乏、一日酒を
病す、

二十七日

昨、今朝病状、皆さ、漸かく軽快を著し、朝
未旋服を業し、咳嗽の為、亦臥して半日
旋服を讀み、亦あ、中より、前月、折え、此
折、知、わ、し、皆、治、無、余、の、押、毫、一、毫、も、亦
別、在、の、字、其、数、多、と、字、を、多、く、干、後、中、央、
論、と、編輯、其、多、り、余、此、人、間、道、道、の、一

棟原集

篇も書完ことを求む、九、州、電、氣、軌、道、今、代
長大回里、と、續、双、軒、居、美、大、術、集、林、回、路、を、善、
せ、あ、く、解、説、余、の、地、草、山、陽、稿、終、し、あ、る、よ、
花、来、か、る

二十八日

小、雨、木、林、陽、分、陽、の、き、来、流、早、大、と、值、持
員、改、選、の、法、果、を、報、し、来、の、十二、日、の、原
二、方、田、を、歸、し、と、お、得、在、前、日、日、お、飲
の、色、ね、也、在、道、抄、我、を、飲、す、八、内、々、皆、底

三中全会も本年も亦高田の山石崎二三と
未書の大石理田市崎範三斗詔、逸書と
其子、中央公論社と著及改訂版全書第一
回二冊の寄贈を受く、此の換方向定今更
らるゝ客も考のハカキ列の、鉦子の如き以けら
味噌一樽と書せり、午後新有に湯歩
拍を踏みて帰る。

廿九日

時、朝来一二、原行を整理す、後塚彦

時、朝来一二、原行を整理す、後塚彦
つき云々、中等教科書協会三十週年
記念祝賀会(十月十一日早稲倉校)あるの
今午、坂本嘉流馬と未と、東京朝日
より原行利十一、田別来、文三身り、藤子
の法考をみる、午後内ヶ崎旭三郎の電に
在り、陸放翁の七古五詩と録す、四時、
先回、飯敷東上野の風月、飯をゆく。

三十日

所、初来人間道迄「の筆」と着付ぬ。此山
に書置式四つ田内を掛し、故上弘亮より注射
を施す。午後庄司浅原原房の目送不送に就
て来、江中央公海の寄附者き傍ぐ、一筆二十
枚成り。

十月

一日

日

所、初来中央公海に投す。き原房を此の内々
崎心三らし、又、功只の依曉の押毫を此の

銅の筆筒を懸る。午後文行巻を功の如
美少人控筒、お打、案文、玉本、筆、彦の如
筒を懸し、三十山掛、心電、又、原房を書
きつけ、二十枚成り。未定外、亦、西信八、
り、未書、互、返筒を投す。

二日

所、一旦書き畢つて、及、行を訂正、追、消、入
服部、嘉、香、に、扶、毫、を、懸、り、亦、此、原、房、列、の、浮
世、古、意、を、見、り、五、時、安、田、美、次、ら、の、方、の、稀、書、の

復察令ニ時み白人と令す

三日

頃今朝五時四十分枚中央に冷て投ず、雑持
類法よのを消す

四日


頃、沙島山言英令に十日客の海軍に交付、三三
の菜と野菜をお来、日本船通三丁目の
島武夫一丁や、店と、山崎亭とをほこむ

棟原製

人として定に解つマツケに余の逸書、中の酒
邊十則と標語と●見とて其の二三の記
事をもき、余のい状流をらふ、十時お出
文行せ、其地ニ二三のよと婦心、其書を
ニ嘯して喰くる、おあま、雄を果物を照り
来、おあまと著し、夜に入、今衣満月例の如
く酒、野菜を献す

五日

頃、朝未だ夜を著す、大石理園来、標表、
尾、古河六通●表壯心を托す、石司、浅水

未だ千代新宿に在る花の種子も懐ひ光と
又活動字も見て切く、又吹着に島の子未
だ、一夜の時垣内道退朝日清を、於て河内割
之に於て、マルヤヤント、ラブラウ工ニスと朗讀
中懸放送、 寝がら聴く、

六日

昨、逸筆の標巻と自書、在司に郵送、森
脇、東河、浦川、真崎も、菱一函、未、味、崎
崎士の切支丹禁制の終末を讀み時を移

標原製

又、在司、淡入、二平、箱を郵送す、十、二、三、五、口、記
崎士古稀賀字の案内列、六時の生令
今書と、花と、文、の、堀、心、の、農、村、全、新、研、究、完
今と、ひ、ら、き、い、小、平、権、一、農、林、省、更、生、部、中、是
田、久、和、保、(、産、業、神、堂、の、理、子、) 千、石、且、天、介
(、産、業、神、堂、中、央、会、) の、講、演、を、聴、く、余、も
剛、心、の、教、方、を、修、へ、去、つ、て、紅、菱、飯、の、睦、合
に、赴、く、夜、未、而、あ、り、

七日

雨後の服部嘉房の就吉列の三木武吉
初瀬川支行の死を報す。龜山兼三江
馬春龍の遺物三冊推帯。四王天延春の
フリーマーション秘魯法社の請渡と讀む事
田中峰の簡す。

八日

日

今晚快雨一過。朝来旅次を筆す。日本圖書
館編目しし報生吉列の田村壯次。午時、
宇都宮真好し。粟と焼く。未だ午後東京

美術部正部に列り、双折を。書意才三四
賣主の陳列を見る。今津二一。未書。

九日

雨朝来旅次を筆す。十時、法印副分地の重
役今と修多事とを交す。市島範三と未書。
白木尾に列り陳列中の沓江家名画
書画扇類の陳列を見る。坂口南吉
し。余の題筆出願のつき中央公論社と
文海のつき減派のつきを報す。未だ未書。

と云ふ洋葡萄酒存る月家六次と云ふ松呂早
と云ふ来り

十日

所、森脇美村坂口、献去大石理田、在り成り
亀山素三交々来り、旅歴を兼り、改上以
花を注射を受く、四刻而上合と来書
十一時内子同付、新有の存持丹と云ふ物と
終心日本橋と改して、同一日、所得税の徴
票列り、中央公論社に此より存持丹^{持丹}改り

棟原表

の口社、寄りて、若くは字とせり、そのを持
若木の終り、西邊に示し、此と改り、大石理田
より来書、十四日書、此より存持丹の通知あり

十一日

時、河井女、後より、坊内上合、二つき、堀邊中
梨果二画を記し、京都大文を存り、松
茸、一、龍利、二、坂に献去、と十五日、送
今、つと、其、商、系、行、二、大石理田、用、用
付、玄、関、前、松、の、内、田、の、中、垣、を、繞、り、雄、弁

結稱向く余の寄るを七とめよ。今関天鼓
とて此處を寄るもの。中二一首金を証
ふの詩あり。今夜中々の折科書出の三十
紀念會に招ふる行かす代人を出す。夜二入
雨あり。

十二日

雨、朔未旋録を著す。人の為め敷紙揮毫
西河太流印も未出。午後七時真毛敷紙成
り。五時登谷を白原に赴く。今夜高田夫婦

を報領。前日吾等早大関係今社重役并
り。後幹部招領と云ふ事。返禮より。海
有り。病氣治癒と云ふ。後為人より十七
日。速生今二のき。未商。

十三日

朔朔未旋録を著す。勝沼寅次郎より幼押
是為紙を其の。亀山幸三。押是毫を其の
一稿を著す。七難法推并。校了。海子。
亨の卦列。大改の神田吉澤。松野

老龍到来、長田中心より来書、午は、
酒と飲み、午後、三時、夜未、
あり、ラレオ、放送、三玉、紙、海、流、と、聴く

十四日

雨、神田、去、湯、を、来、出、杉、草、の、跡、を、
す、海、邊、の、美、作、儀、に、花、輪、を、寄、り、
矢、吹、男、女、人、才、子、の、男、奇、比、海、道、に、均、途、
地、後、の、之、空、に、竹、云、の、漢、あり、右、の、つ、き、
石、塚、に、い、り、と、雪、流、を、文、へ、紙、後、の、を、頼、む

榎原製

祝、金、石、田、引、出、ま、回、る、波、瀾、合、と、し、漢、
書、肉、の、ボ、ス、ター、を、受、り、来、る、中、計、後、
一、と、今、あ、る、定、み、に、从、す、午、後、あ、田、所、に、捲、り、書、
誌、各、今、に、臨、む、

十五日

日

時、と、九、時、中、央、ス、テ、ー、シ、ョ、ン、ル、春、城、今、日、
人、と、落、合、一、日、の、ド、ラ、イ、ブ、を、試、み、ん、と、一、行、
十四、名、三、台、の、自、動、車、に、今、乗、九、時、出、
出、碓、子、に、列、ん、と、一、途、中、前、内、お、お、

連健為の徑名に係る八聖殿を一詣りて
と上の方の隅に主人在り鄭堂なり其内に
受く此建物の八角堂を其楹上に世界の八
聖像を安置する祿堂と云り其彫刻
全部出来ずるといふ此地に太子八王子と
云ふ木より丘上る登るハ本牧の海を見
出ると彫りて居る、安達と漢と撰
んハ十八名が客附皇より行つて一と云
と云ふ十一時許に七碓子に赴き、碓子
園に入る、海に沿ふ橋を説地と云ふ風景と

く、園内の松石亭榭皆可なり、園内を
たふすあやうあり、家流の扇海にちよふ山家
あり、一時間ある十分の款を是し四時
ゆきつとき橋渡の橋本所より電車
ゆきゆき、手塚止北日一行中、村山
(此村山(亀ヶ谷)奥田大江、武田、小林、坊
口、大石、石塚、日比田、伊藤、藤田、手塚、丸
平、とらと)甲州、葡萄、小森、儀三、りり、とら
松三、平、到来、夜来雨あり

而後始成。此夜の清あらし今朝初雪と記す。方身
 手塚小井の成也と記す。雑記秋田に酒に閑し
 寸草と記す。杜崎町長西巻進四郎石里大
 次郎の成也と記す。未極初夜の中村君に縁状を
 其下十時麻布家所天主公教令に赴きし
 河内重之の告式に臨む。庄司深あ金の他
 筆の初校納三十四十八頁迄と持巻。雑筆
 を記す。京都便利札と名崎文庫。藤本古
 新字鏡模巻二冊を野々来。人今関天鼓

二副と記す。今夜平次源部の子孫を
 祝す。今も。微恙の為の缺席す。

神嘗祭

晴風新島海戸協士之冬死の報あり。今も武
 州金洋宗家別荘に於て健志令を御好
 志令あり。十時東京野に於て安原清太
 郎と令し。自動車を品川野に到り
 全海文庫行湖南電車に乗る。満
 五鐘の地より立ち降りて困む。日車中

建郡場士の在るを非とて下車して初日を
了、又自動車も倒るゝ家別邸と控ふ未
今十名許、高伯寺七あり、朝鮮法曹府農
林尚長海志、忍もまゝ、潮、今より、北人岩船
郡下、海志と左妻の、民族也、やがて、家、今、
福、主人、支、妻、前、の、も、未、あり、刃、急、あり、海、産
小群の、天、楚、羅、最、七、口、こ、あ、ひ、且、の、飲、又、且、つ
治、し、時、の、移、る、を、知、る、も、北、別、在、る、の、先、代、姓
世、中、一、あ、り、分、回、ま、う、う、一、こ、と、あ、り、も、十、数
年、一、あ、り、す、北、河、北、地、の、人、家、兩、増、今、の、整

榎原製

般の、定、こ、り、り、り、四、時、靜、し、一、日、全、日、之、奉
を、訪、小、洲、致、時、官、既、こ、り、き、入、る、能、く、す、因、故
去、り、初、人、こ、り、も、不、互、り、を、安、を、轉、し、海、也
の、風、日、景、を、弄、し、亦、海、南、電、車、一、二、乗、り、物
途、に、就、く、車、中、亦、混、雑、海、志、忍、作、務、政
大、り、余、及、い、建、部、と、事、案、に、控、て、小、室、の、を、開
か、ん、こ、と、を、訪、ふ、流、して、毒、改、溜、池、の、荒、林、と
い、ふ、家、こ、入、り、飲、む、北、家、移、居、の、婦、人、の、苦、み
不、可、也、飯、後、茶、多、飲、二、三、杯、の、快、飲、十、時、家
に、帰、る

十八日

町坂口献在里井降親越田助(尚士生命社員)
来治、拓川今も拓川集於(遺)二冊を定寄也
来、宇都宮の直江(遺)来、午後研以拓
川集を讀む、夜来白

十九日

雨村山竜巻(遺)来、森山来、拓川集也
来、午後時酒を飲、三時迄寝臥、覺来
り龍書を讀む、夜来、拓川集を讀む

榎原製

聴く

二十日

今朝多雨、池水漸やく漲、少也、三月
以来無きこと也、相来、龍書を讀む、
山来、三(遺)石川侃九の古保山(遺)来、
小野(遺)来、拓本(遺)来、二十九日、遠足、
の要、内、拓川、目的、地、長、満、入、坂、上、拓
川、注射、を、受、く、石、川、三、(遺)来、生、龍、井
二、龍、印、持、也、持、卷、午、後、豪、雨、志、き、り、拓

久龍今旅法を初候しと夕陽に別る、五十崎嶺
野にとも栗、胡麻、葛、刺来、夜に入り雨降る

念一日

頃、朝来船を乗す、森脇美村より日本婦人
を英譯し、竹柄を持ち来り、英文「大日本」物
古の材料の一も、秋刀魚と小魚と三箇也
是送、朝鮮人冬を渡す母の郵送、高崎屋の
烟管に關り、長蛇令を乞ふ、上野の風月堂
に飲しとゆく、海邊に思ふ、来書に在る答

榎原製

書を思ふ、廿七、廿八あり、生念、信陰、今、坊主
十歌の念、念、念と開くこと、つき、吉田、友人
里、候、友、思、と来書、と丸紙、睡、と得、す
願、困、し、志

念二日

日

頃、朝来船を乗す、千後、文、行、巻、を坊、の、乞
一二を、猪、の中、す、お、田、崎、桂、香、の、雜、記、十、冊
あり、桂、香、の、信、思、と、す、坊、の、彼、ん、或、は、致、し、は、る
此、程、の、文、知、ん、本、人、の、生、前、出、を、を、例、と、す、彼、ん

の死致し、終らざる能はず。此夜石代の春の氣
分優ゆる、春を誦し七早く寝て就く

念三日

吹風、朝未始ぬと筆す、坪内迄是來流、五志
中、廣瀬の順も松茸も、客のそまの、栢崎、西巻
近、四ヶ所、海を利く、春陽をよも、要好、柳列
末抄録と時を移す、荒木十畝の、此島、陣列
と乃す、病め、家、病、四、時、日、法、印、刷、才、能、を、ま、不
田、垣、通、三、の、墓、を、建、ん、こ、し、七、日、と、客、付、を、勸

榎原製

め、其、入、り、利、く、近、墓、の、無、キ、ハ、氣、の、毒、干、葉、也、

念四日

晴、朝未始ぬと筆す、今日、中、原、来、り、也、
時、の、所、ま、道、の、葉、心、武、を、出、し、示、す、休、後、流
候、春、平、才、の、秋、田、前、久、吹、者、三、と、未、前、
回、者、故、場、今、春、多、也、的、陽、合、聯、合、し、七、来、月
一日、回、者、祭、執、行、り、り、ま、い、あ、ま、内、状、利、く、
安、家、と、し、獸、肉、麩、茸、を、貯、り、来、り、

と子守、鉢かつき、お夏、狂亂、うと来、今、若、野
ニ湯、川、谷、流、石、象、の、揃、あ、て、の、登、塔、の、恐、ろ、く、今、後
無、ん、父、刻、も、も、雨、あ、う、雷、鳴、る、散、り、あ、う、ん
書、る

二十七

町、流、石、象、三、山、陽、の、大、橋、と、高、し、来、る、鑑
定、と、流、石、象、定、森、脇、今、後、二、つ、き、来、流、十一
時、光、を、付、る、出、流、二、三、拍、を、購、ひ、日、本、橋、甚、其、
衛、酒、飲、し、七、拍、く、物、を、後、放、取、と、著、し、る

在、司、流、石、象、三、山、陽、の、大、橋、と、高、し、来、る、鑑
定、と、流、石、象、定、森、脇、今、後、二、つ、き、来、流、十一
時、光、を、付、る、出、流、二、三、拍、を、購、ひ、日、本、橋、甚、其、
3、山、村、耕、花、ら、来、書、る

二十八

町、相、来、流、石、象、と、著、し、る、中、央、公、論、記、と、な、る、
料、の、十、四、到、来、日、本、国、方、後、場、合、と、な、る、来、書、
杉、山、守、三、中、同、山、好、津、山、之、定、科、高、が、本、公、館、
多、少、拍、と、著、し、る、押、高、茶、と、文、香、と、な、る、
大、隈、房、一、冊、贈、り、文、香、之、院、の、教、科、書、の、件、に、付

田打莊三印山林十平(古雲をかた)をばりて
未頃午後理髮三時日防生午のビルディングに
又の場合の例合をいらく日英と印方の位高
問題に就て副島八十六の決り、五十時旗印を
石榴を飾り来り

二十九日

日

頃今朝六時は先家主人等と遠遊の為め
信州、かま、宇尾の海来りメロンを贈り
八時半同方館協合四人と上野驛に旅合を長

榎原製

遊、遠遊とて出が、一行八人、和田松本太田
今洋小亦太、一回の所と暮る、熊谷驛に
一時半を費し、可驛を、秩父城道、移り石
原、大森生、武川、永田、山前田、宮の長、波久礼
植、野上、法野と往て長瀬に達す、乗船
の都合を、上長瀬、下車あり、此の間約一
時間も費す、野上植といふ(と)山岩に
悠漸やく凡る、上長瀬、叢林に故
及あり、驛を二町程あり七川に達す
と、先合を、平配し、船待りあり、直

に乗る、此之爪、余亦在、其の事、断山、千尺
一、又、此、一方、巨、口、龍、怪、石、屏、凡、の、状、と、為
す、亦、亦、清、く、波、平、公、凡、心、願、祝、賞、と、忙、しく、
船、進、ち、又、従、い、景、七、亦、轉、す、此、川、と、赤、壁、と、此
す、る、の、湯、死、又、あ、る、が、此、以、岩、石、色、白、く、晶、波
も、七、日、先、に、輝、く、船、中、杯、を、奉、け、一、行、舟、中、
と、こ、と、七、し、之、を、日、本、ラ、イ、ニ、ニ、比、す、白、平、城、の
美、観、と、結、け、し、巨、岩、起、術、の、状、却、つ、て、優
る、こ、の、あ、る、も、受、ふ、の、舟、長、湯、と、遠、し、自、動、車
と、駈、り、寶、登、山、神、社、と、稱、し、山、の、中、腹、と、お

様原製

り、壯、者、に、頂、上、す、を、取、物、し、て、登、上、せ、奉、り、吾、等、の、先
人、に、此、後、長、生、館、に、入、り、時、已、に、十、二、時、を、こ
き、一、行、舟、の、今、と、い、う、き、我、時、間、夜、矣、去、此
日、龍、領、七、景、然、の、地、又、あ、る、柳、川、瀧、り、山、中、
飛、木、山、影、の、天、清、杯、と、入、り、来、る、母、快、事、し、
三、時、定、ま、と、擲、し、ゆ、進、と、執、く、六、時、二、心、に、着
一、向、と、あ、る、家、に、ゆ、く、不、立、守、程、村、宗、八、病、勢
腐、男、の、為、め、代、物、の、湯、あ、り、赴、く、と、し、生、お
の、為、め、此、湯、是、茶、米、と、り、し、湯、物、を、家
セ、其、二、別、所、湯、の、如、ま、さ、り、先、夜、と、入、り

伯耆、近來向あり

三十日

向、相來花紙と兼す、菟山素より古画代
三十日交付山田信成、改口献書、以上は
其の、額金五兩五十四引出す、八十四と
十箇内、額金入る、石原長三郎、奈良市共就
任の挨拶状、列の、午後、由文行書と、訪生和
其、葉氏代、五十四引挿入、一二の回書と、特
少と物、其、名家書、東一巻、装成る

標原製

三十一日

昨、平福百穂の赤、梅す、其、月十四日、日、築地錦
其、柱七十四十五年、同念、今、安、不、内、財、其、の、後
塚、彦、次、中、一、大、石、理、園、其、記、有、森、昌、三
、石、刺、松、大、中、一、執、事、の、箱、七、投、郵、杉、本、甚、一
今、井、貴、一、石、原、長、三、中、一、者、執、を、受、け、す、代、り
の、邊、其、の、赴、き、行、打、宗、八、二、見、其、状、を、其、
す、所、得、税、附、加、税、電、流、料、三、兩、七、十、四、六、六、六、内、子、
交付、雜、報、を、筆、一、時、を、移、す、其、分、六、次、者、三
其、功、更、向、一、七、如、也、

〇十月

一日

晴、山崎直三の訃報、十一日午後十三〇に到り上
方節遠き念のフログラムの到り、演劇協会の
の史的役割、辰野洋に道徳作上演回願
の陳列を乞ふ、森目陽七の文協協会につき
来訪、分科八一も校友河富雄を招きし
来、午後散策、銀ヶ崎谷に参り、文の巻
こよりの二の回方を鑑み、七夜文の
者三に於かん、行、早く臥す、夜更雨、

榎原製

二日

晴、朝来、南都石佛巡禮を後志、前島福よ
り丑世を福井家へ嫁入り、二つき十九日、後志、後志
の奥山に到り、(帝園ホテル)京都影本刊行会、春を社
花とよみ、大塚回、春日を郷り、春日、田村
莊次郎、紙巻、中、秋、二つき、二つき、二つき、洞
市、作、来、訪、吉、時、流、す、午後二時、中、山、水、川、所
に、持、り、山、崎、直、三、の、生、別、式、に、臨、出、丹、美、の、弟
来、訪、難、波、と、著、す、す、

三日

の江戸

明風相本放紙と筆下り、示小物、唐雜葦
の巻首の序と化の書、品三、未書、
藤田、藤道、去原、遠、少、老、を、寄、も、来、の、年
四、教、育、令、五、十、通、年、祝、典、の、振、興、に、列、り、京、都、の、影、本
刊、行、令、と、考、を、考、す、記、生、に、帽、子、放、紙、を、題、に
不二家、に、致、し、七、仲、子、を、筆、す、信、州、湯、田
中、と、行、村、宗、八、の、消、息、に、列、り、五、十、此、族、の、味、を
列、す。

四日

榎原製

明、庄、司、淡、水、示、小、物、唐、雜、葦、の、序、を、筆、下、り
中、洋、象、一、子、在、去、成、代、評、紙、の、序、と、化
の、書、と、共、に、大、石、理、用、の、技、師、今、井、貫
一、と、未、書、藤、田、鏡、(寄、)、前、子、故、上、院、の、免
痕、と、是、案、令、列、す、矣、如、増、費、決、定、の、旨、に、先
列、り、能、紙、と、書、す、也。

五日

日

明、板、木、福、入、松、の、子、入、と、考、す、相、本、物、を、數、心
記、し、時、を、移、す、以、り、為、人、令、と、考、す、と、支、那

ふつきま方午後早大に武道館で子銃式ある
行かず、所時に乗せ、敬東浅き色と出し
死生に物を賭せし場、中央公論社を河原
舟二回二冊を字の終し来り。

六日

雨、坂上弘花に投簡、以後五十島、味喰代
十日郵送、服部耕石、喜笑、其谷、五十、年
記念会を近く、信子、二つき、其、山、合、
、山、状、と、此、の、真、時、桂、次、子、、
、山、子

榎原製

函の次、巻と、振本と、防、左、角、道、河、内、度、次
、即、是、子、も、丸、い、も、来、出、午、後、開、乗、
、七、本、を、教、心、記、す、五、時、お、多、鈴、、列、り、睦、合、
、臨、七、夜、来、風、作、

七日

時、分、植、木、卷、二、人、事、の、朝、来、旅、程、を、事、業、
、森、陽、身、次、坂、上、弘、花、に、注、射、を、受、く、又
、免、疫、令、現、増、強、の、事、時、を、受、て、服、部、耕
、石、二、回、も、又、高、部、下、村、山、大、の、二、回、も、午、後、五、時

永樂尺五部、於て元の編令の保健問題論法
今とひくく、室川米次博士の嶺の自覚を状動
脈硬化、血圧亢進の發端に就て論法あり、

八日

時、此夜洋法の家月博士のおもむき入腹持
士に謝書と書す、高橋博士三三も福の湯
のハ海元を羨しりまふ。坂口献吉余の地
筆の跋も持参、字もも交付、十時はお出
給て、物を贈ふ。又文行書に家原の文書一巻

榎原製

を贈ふとゆへ、大曲花屋に託して菊衣二瓶
を贈ふ。朝後下崎書もも梓を贈り来る。館
恭平、と鮎の味噌漬を贈り来る。近頃所
より、陸軍省の心得書と配付し来る。雜紙を
兼りてたふ入。

九日

雨、朝未強風と筆す、和田垣福三の巻を心々
人考の温木五三も訪二のとき、金十圓寄附を交付
十時、法印刷の會後、歸り、伊も後夜を

讀み宛紙を兼す、下村西へりり入流を待つる電
報利の、領益平一ある、五、一五事件海軍側を
判決時減刑死刑一人もさう

十日

吃朝未施紙を兼す、手紙淑印七稀祝の海
詩色紙利未、高橋淳三、函考を兼す、版部
耕石庄司淡あまの、山形好細谷日天(坂口
祝旗)の、海軍利の、領益平一ある、五、一五事件海軍側を
判決時減刑死刑一人もさう

榎原製

とく和洋書合款目紙(又及て郵上)
冊印刷成り配本を兼す、淡利物物紙
とく和洋書合款目紙(又及て郵上)
冊印刷成り配本を兼す、淡利物物紙
とく和洋書合款目紙(又及て郵上)
冊印刷成り配本を兼す、淡利物物紙

十一日

和耕石の、同生、前島家紙、く、淡利物物紙
とく和洋書合款目紙(又及て郵上)
冊印刷成り配本を兼す、淡利物物紙
とく和洋書合款目紙(又及て郵上)
冊印刷成り配本を兼す、淡利物物紙

後一二枚をすし午後紀行に拍を賭し十八日初和
田、堀田三の墓除幕下果に這停舎ありあり
、村山巻裏に技師、彦瀬の吹く拍を賭す
、松後直に探訪九時起きて後未十時二十分の馬
羽行汽車に乗るゝ、乗るゝ、乗るゝ、乗るゝ、
香取の所、五日十八流を起し、境見とす也
一行、古田若木十畝、井上(辰)肥月(軍中)
増田(義)一(軍中)廣吉と今あゝ七人也、車中
、車中、車中、車中、車中、車中、車中、
時獲と就く翌朝名古庵にて夜ぬく

十二日

幸比好時を得たり、名山驛と常高と婿の
七朝六日を満き、伊勢の山田に下車、時九
時六分也、日時十二分六軌電車、乗移、此
、折空堂の設備あり、豫めめ望、席と定
め得る便利あり、一行活矣時の後つとわら
、青山ト子ん、車を降りて名張と達し下車
、名張、伊勢の玉うと三堂、此地を
起點とす、香取の溪の舌の勝あり、自動車
と駆り、其跡を探り、此の溪みと勝と感する

西側の山勢雄偉なりと山骨柱形とありと此三
すよあましく、吹く男性的の風格を有する、俄に北
系火を吹き、誓々たる常盤木と交錯し、駁ら
凡波あり、即馬に比まんば傳ふ、と或信を乞ふ
扉外轟天、懸山、天狗柱とん、と名つけあり
よのちも、音の如く感ず、四里疾馳して四里、虎の
競走美人と、應接し、追ふる、十二時過ぎき
名法、驛に戻り、おろし、閑と云ふ家、就て午
餐を喫す、此迄の割烹ともしも不相成と思ひ、
と禮上等と申し、いふまゝあり、流波の鳴り、返し

二三、揮毫の後、赤目の早八、瀧を賣き、
一行、先づ延壽院を拜し、いんも、徒歩の山
路を行く、二三下り、と一瀑を得、又一下り、
更に一瀑を得、おろし、と三瀑を乞ふ、
雨降り、曳布、不動、靈籠の目あり、各
その姿態を異なり、紅松水と映し、秋風
瀑と表す、とあり、一行、茶店、憩ひ、
若の尚飽らず、更に一瀑、と乞ふ、と
山跡を登攀、余も田と名法と戻り、地
のゆきを待ち、亦自動車と記す、大野

寺を訪ふ、寺の不高き處にあり、寺前溪あり、山亦岩岸に連るる、巖石多く天柱の屹とすことよく、岩の相乃く之んを兄の岩と改め、此の山厘に四丈五尺の紙佛あり、對山岸より神す、こんと更と室生寺を訪ふ日、空の雲道の終俣と自動車を過て、おを以つてやめ、名法野と電車に乗る、八木をて京都行電車に降り、七時頃、七條に着て、大文を紙俣と投す、下村正太郎未訪、明日終る、波離をお祝の後

一行、下村を引、川平の終を考ふこと、多し、此夜一行、置酒深更に、後天増田、今夜帰、京を夜十畝とを以て七時。

十三日

昨、朝東井上と如酒を共し、快を交ふ、十時自動車をこぼり、終る、院の林が美し、赴く、数年前お祝の許りを得る、多し、事か、お祝の兄すし、己にやしが、此行幸し、七時、人の観の核を得る、此國の二百七十年前

徳川氏経略之後、永元天皇ノ御一宮名荒木
縁垣敷十五萬坪上中下ノ三離宮あり、各離
宮ノ御成門あり、見付置皆異なり、其故七亦
同し、一ノ先づ下ノ離宮をお親し、次上ノ
離宮あり、此離宮を較々高き地あり、十段
所あり、漸やく遠き、晩中徳任湯死の風
光一瞬の内、白雲より高く、元湯の懸りあり
下と大なる池あり、浴龍池と云ふ、崎あり、茶臼
崎と云ふ、杉あり、此茶臼赤内茶臼崎と云ふ、火
を吐く紅雲池あり、映し美観あり、可なり、こ

榛原製

んと柱の離宮、比つん、観極大、一ノ自然の
風、似と、心あり、予の之んを、見るの、あな、庭、かりし
を、悔へ、な、之ん、も、下り、し、又、敷、丁、あり、す、一、條
の、道、を、夾、ん、び、あ、側、の、田、畑、あり、約、七、町、乃、ら、二
葉、塚、の、以、十、三、年、一、書、内、有、の、湯、實、止、り、し
神、是、と、流、外、や、ん、な、地、と、云、ふ、漸、やく、中、離、宮
と、別、る、林、邊、地、の、丘、上、に、一、寺、あり、林、丘、寺、と、云、ふ
曾、つ、て、美、津、子、内、記、王、の、子、え、ん、一、寺、あり、其、の
お、住、の、岳、の、室、を、苑、内、と、移、し、今、も、の、即、中、の
離、宮、也、即、ち、此、の、離、宮、の、ゆ、故、に、入、り、七、の、神、經

さきより、家へ入つてお祝す、東柵の掛生(き)きこ種殖
るを扱あう、或るは友縁の画あり、床の壁よりま
和歌の色紙を張る、すくこ女流の飯味(い)まきこ
る法指也、庭園に満西園雅(ま)る一天地を居
す、庭にお日口坂(か)あり、雪丹(に)飯とまよ、下離(さ)を
と満(ま)るまよとまよ、此(こ)坂(か)も満(ま)るる地勢(ち)も
るが、あゝあまふ、此(こ)の離(り)甚(し)とお祝(し)畢(ひ)
り、時既(とき)に十二時(じふに)を過ぎ、徒歩(た)歩(ふ)二十三町
時(とき)もとまよ、約(やく)一時(いち)河(か)半(はん)美(み)の祝(し)候(こう)と推(お)す
べし、一行(いっ)車(くるま)を肥(こ)まを丸(まる)太(た)河(か)の下(した)村(むら)郊(がう)
二

榎原製

別(わか)る時既(とき)に一時(いち)先(ま)づ新(あら)茶(ちや)の洋(やう)館(かん)をえり、
位(ゐ)地(ち)の懸(か)郵(ゆう)と回(まわ)しけんも何(なに)物(もの)も皆(みな)改(か)まらぬ
元(もと)下(した)打(う)まゝの妻(つま)匠(ぢやう)と成(な)り大(おほ)休(やす)の掛(か)生(せい)と全(ぜん)
一(いち)下(した)の朝(あ)時(とき)代(だい)の建(た)築(ちやく)と別(わか)り、室(むろ)内(うち)の焚(た)火(び)
神(かみ)女(め)皆(みな)之(これ)をさしひ野(の)るまゝ人(ひと)共(ども)心(こころ)の鼓(つ)をえり、
洋(やう)館(かん)の壁(か)をまきけ三(さん)時(とき)祥(しやう)し七(なな)時(とき)考(かう)く、
今(いま)夜(よ)井(い)上(の上)と飲(の)み死(し)んと寝(ね)を忘(わす)る、此(こ)旅(り)中(ちゆう)の
一(いち)快(かい)也(なり)

十四日

此(こ)今(いま)夜(よ)高(たか)田(た)日(ひ)付(つ)夜(よ)り、木(き)葉(は)を決(か)く東(あ)京(きやう)

寺宇の修造に着手し來者余の標榜を考へて中
山下りの日本民俗を辭典に附成し一部を
二、今関天彭と出所を示し來りて年海を
飲みぬるの睡臥不足を病ひんとして刻
眠る長海紀程也と來者

十六日

雨朝未だ頃おひつりて地のはりつと探り
後まじりて山お津山杉山宇三印と來書
且揮毫を囑し來りて夜に献文中央公論社の

榎原製

編輯員出口一雄と付を來りて余の隨筆
校了を報し紙頁數六百と交りて山
利久と四印伯音出系を報す

十七日

雨朝未だ頃おひつりて地のはりつと探り
後まじりて山お津山杉山宇三印と來書
且揮毫を囑し來りて夜に献文中央公論社の
編輯員出口一雄と付を來りて余の隨筆
校了を報し紙頁數六百と交りて山
利久と四印伯音出系を報す

京報唱と書りてあるの宿後後通

十八日

所請葦田市邊鐵たす、浄念寺字の附屋三十
三田郵送、今時八、寺原祝鉅也亦、部志を
其字都吾鼎古禱祝、字の附屋十田附、
山田信也其功、中央公論社、今の地業の屋、
入のき印影を投郵、平山是とも、其土方色日
別未、午後陶片を讀む、二時莊司を公共
田墓地に判り初田垣通三博士の墓碑除
葬式に臨む、耶穌の教の式を淨りし、
五時号士今時五時と開き、晚の

榎原製

早上交之故人の墓に、進修の役を為す
早大出版部より進修二部別未、亦一也りのよ
り、空の初金井口を、初湯つる、返報あり

十九日

日

時朝来旅を著す、中津家一辛其論人
を待参多時注して、午後高魚の新若
御家騒動を後、時を移す、五時より、帝四
ホテんの前島福井而家の結婚披露の金の
赴く、

日、故中川流造建碑委員長中川平助横田孫
次郎等訪之のきし、是十月寄附金交付日
押書二葉を並べ、高良共念念今、出陣
の印并、幅原部耕石、為持也、若槻氏
政堂首上、中野驛より速難無き、の報あり、志
田和男も、梨栗を貯り、文行を勧め、二行松
本も、熊公三十四日拂入、旅程を筆下し、夜
入る。

二十二日

榛原製

時、平野政堂委員長、未書お探脚心、ゆりき、早
大書道会、と押書を為し、未、市崎
鉄太、ゆりき、未、市崎、大、遠、級、と、又
の、若、集、と、係、古、活、本、目、録、を、寄、り、目、録、
十、時、出、陣、の、時、に、ゆ、り、き、ゆ、り、き、ゆ、り、き、
早大出版部、と、係、今、(十一月九日)通、知、未、の、植
木、十、数、日、危、村、年、入、り、象、本、の、終、り、

二十三日

新寄附

時、高木義一、函、を、寄、り、中央公論社、
吉島中雄、也、十一月一日、帝、國、未、テ、ル、

扱ふ、政教社を来出、旅費を兼す、書道
 舎の為り、揮毫、森田、石田、石
 月、社の折、御堂、入、へ、と、揮毫
 嘱、上、に、揮毫、印刷、合、地、の、多、く、修、道、母、死
 去、り、の、き、香、典、と、贈、り、午、後、内、子、秋、多、く、収、入
 祝、詞、を、の、り、燈、を、掛、り、讀、出、の、時、を、喜、ぶ、い、り、

二十四日

時、相、来、旅、費、を、兼、す、柿、瀬、物、を、山、若、翁、刻
 紙、蓋、を、寄、り、あ、り、小、大、江、成、一、平、の、聖、美、文、を

社、海、の、き、古、時、河、内、孫、を、詳、談、紙、を、函、金
 ハ、田、生、の、も、り、あ、り、大、阪、毎、日、の、新、年、節、に、余
 の、他、業、と、微、く、来、り、稀、古、家、六、四、中、の、會
 卓、一、基、橋、子、の、添、り、来、り、出、版、部、の
 近、刊、日、伊、奈、時、の、函、の、次、漢、割、中、配、本
 午、後、平、山、舟、来、来、三十、日、日、本、産、業、協、會、総
 裁、伏、見、宮、協、会、主、席、下、の、扱、目、状、と、持、参、帝
 國、ホ、ニ、ル、に、控、り、御、下、を、表、彰、状、に、授、け、る、旨
 の、令、を、長、谷、村、義、朗、男、に、来、状、を、り、冬
 席、の、通、牒、を、送、り、す、昨、年、の、函、本、社、の、斯、く

侍二世のくさうしか河の支宗と云ふ

二十五日

明朝未始録と兼て横田派のくさうしを評生
命記より就任の通に就ての松平原四古稀紀
念考行の天行詩文鈔五冊二部到来出
浴村口者店より板屋日記(天保年)考考考
即(即)と雖も未始嘉重宋本書影と
の考考六冊拂下為り凡月巻の
一七ゆくの寝後天行詩文を讀む

榎原製

二十六日

日

有紀尾井町清め谷皆秀園に於て有共
茶茶百少十禁と行ひ遊印の陳列をいふ
二つも十時路席一禁典に臨み列品を見
ふ坊狭く物多く旋遊者し但れ廿廿其
の遊り家遊り遊り少し余七六七遊を
出づ十二時始去午後向方居を物を物
を物(物)煮賀花たりと東者お中河原
送碑除幕の通に到る旋録と兼て
夜入り雨

二十七

雨庭村今以美燃之入とす雨後多き蓋て流か
き、難保と葦す、谷村一大中が末書其の
刊行に傷了所千鐘目録代付一冊を以て未
了、在司茂水日心持登於葦牛出来の分千
部持冬為村一書と見たり、

二十八日

成風、服部耕不司功出陳の印并帳戻の意
係幸方の印帳元約九尺とす、関大令と未

榎原製

書、耕不三訂刊の徳書と移す、京都谷村一大中
、難保と葦のす、難保書之徳刊とす、今
安鐸次中、未書、在司茂水あり
其の持、在りし難保、十部、在り書其す
及、今書と列、散果祐楽坊表あり、
一物、其書、難保、新目録、物と難あり、
り、不在中り、上中書、其の持、在り、
鳥森る人と被り、吉田和男と未書

二十九日

内初来旅海を業す、阪上イ多ク注射を
施して去る、山田信成より被米志本の配本を
受く、旅業一冊其外、坊内安國の好く共
分山田に托し去る、預金ニラ目引出し月主
家用に充つ、雜業二十冊配本を虎司に
托す、先人名投票

三十日

時、島村民爲り、山田次郎信成編纂
ニつき、東海の時流す、村山龜壽より

里遊者合を賜り、東の雜業を業す、山田
信成より、未だ三時永樂部より、文の協会
評議会より、臨み、東京科学校物故去秋
保安沈の米回シカゴ世界博覧会をも親
業し、今一時方半の海に渡り、五時高
回ホテルに赴く、才十次日本産業協会の
ニ於て伏見信成志臨御切音者六十三
名、即ち表彰状の勅授あり、令社も
其の業に類して、信成会之者も物産農工
外務農林拓殖の諸大臣各々祝辭を

陳へ送つて之をも賜ふ、夜に入り兩北の五、一五
事件民間側被害に求刑あり重き、此の與
相徳俊、光立川に赴き、所々登をいふ、
相島象一も、自稱の歌集を寄せり。

○十二月

一日

兩朝未だ、所をも兼す、服部耕石、東渡地
甲、方信南暉、夫を内給久寛、
平野登美久、
巧夜、伏見を、
親授

藤原製

の表、彰、此、并、附、帶、考、數、を、交、付、す、
中央公論の原田圭雄、
歸、し、隨、筆、の、寄、名、を、
税、差、下、出、政、部、
二大瓶利未、
投、す、
求、め、来、り、
つ、又、留、印、二、點、を、
を、費、す、
切、の、漸、固、

二日

時、城下へ参り、未だ相崎邊へ、出立を急ぐ中、夫
公冷然、其年節の技藝を断り、澤庵の傳本
を午田の邸より送呈、及所茂公、同其村山
龜嶽生四七印の旌筆を郵送す。旌筆二
十冊、未だ手焼ぬと著し、正午に到り、五川
佐庵より、西遊山万念を贈り、未だ、郵を急ぐ
リ、宋本諸列考解説を贈り、未だ、十一日、理多合
入つて、日本圖書館へ参り、未だ、午後、其生、
散策小品木削二王天を贈り、未だ、四時、合

榎原製

未だ、文三、山崎の交付、海部未だ、未だ

三日

日

時、朝未だ、其を兼美、指法と、齋後時と、抄す、其
時、一杯を飲り、評伝散策、谷村一夫、其未
書、中澤家一冊、其幼少時、家政の事を、其
して、其

四日

時、大隈侯より、新刊書、其成、其十日、午後

拜禮すへしとの通勝列る。及可後昨とて未尚
大石理田未迄、終全千四引出し、狩花好の如
限の千回并海城を巻く陣列のバーナード、
リートの陶器心品をえ一匙贈ひ入る。又求
堂とあつて皇三十回掛入、林美に似て物
る。旅船を兼す、亦杉木天行の詩入鈔と
讀む。和田為玄種村宗八とて来書、生四七
印篠田鏡造とて余の隨筆を贈り、了海
列る。京都宮井七御賀宴(十七日)物長(新)葉内
列る。

榎原製

五日

吟今朝の朝の波の余の代群浪屋出づ。繼志令
(十四)開合の、日主の列る。森林山田法也、大隈
森林、隨筆と書ふ。森林、先月分、新刊の
補助二十回交付、大隈、新刊、及林、
教養、及、石代、
山、三、蛙の彫刻、持卷、和、木、大、小、
ま、く、う、七、古、名、あ、く、在、ま、く、
八、點、を、
ん、七、晴、い、入、の、小、五、葉、
也、午、後、出、路、陽、回、公、園、を、訪、め、て、
日、以、
也、

魁の納屋表と山の芋を贈り来り、関忠川に
り母考、関忠川に一方を贈り、信長氏に
り送本・函と別り

六日

雨、銅末強水と兼す、溢木直一、母功、加
田垣、浪士墓前、口字、字長と贈り、繁
の宛一冊を世ふ。彼茶平、来書、真此桂
次、中、塩川を贈り来り、南極流、来出
真島、函と兼す、塩川の件、彼茶平、

榎原製

山此と兼す、溢木直一、拙意、色紙、并、母功七
加、母、一、為持、老、午後、関、三、乘、し、天、行、文、鈔、を
渡、お、五、時、に、葉、綴、り、贈、今、に、略、お、高、田、松
正、向、井、上、辰、四、月、増、田、末、合、安、田、美、次、中、り
妻、死、云

七日

晴、風、大、隈、家、の、初、中、務、室、繁、一、情、物、を、贈、り、依、後
大、麻、吉、田、と、餅、米、一、俵、兼、こ、豆、を、送、り、来、り、真、時
桂、次、中、り、廣、井、一、と、送、本、の、函、と、別、り、取、り

献支其の春秋代解法を奉成令員と為る
と云ふ事、中央が論議と初め代解法
五部賜りしもの。巻首の余の言、先本不
注意のなるふ体裁也、坂とて論社と交
際せしむ、午時外出、下谷の風月、飲し文
書、二三日の圖書を踏ひ、大田拂湯、冊吳協
平来り、代解法二冊交付、新刊校互令名簿到
来、雜紙と兼し、七夜に入る、此代解法
新年那の揮毫を七と云ふ、八日遠生
より信書の寄出到り、春陽を氣賀林一と来

榎原製

書

八日

晴、夕吹、東坂に献支等と、未書、抱毫色紙北派
新報、郵送、小林以上三斗、梅花、早
大田、寺、代解法、寄贈、小久江、成、一斗、法、今、此、
与、と、内、議、と、中央、論、社、と、代、解、法、十、八、冊
到、来、岡、魚、川、と、未、書、午、後、山、齋、坊、と、遊、き、
自、善、次、中、島、の、吉、州、式、の、講、義、香、興、十、日、館、の、
村、山、危、嶽、中、川、涼、生、遠、旗、潤、流、と、海、也、川、と、横、金

文行中々々未書

九日

雨、中央公論社々々沙翁全集未三回配本を
受く、加賀の中田邦造々々神橋に潤き、鹿
野今日報を定めて午後十時の西印刷局
社へ午後今午の函を本巻宛中二介と決
す、余社々辞任を申出の十四日迄待た
今に於て協議すること、ちよ午後出版の
配本と臨む、五時大隈今銀に於て、敬儀

榛原製

今、出立、一場の流転を為す、黒石清
心々々ア、レ、レ、年、銀と定めて、

十日

所、朝未加取を兼す、楠瀬向々、西と別々、赤山
愛田々々未書、龜山未三未之、聖洋の中田邦
造、技商、新内銀茶示、と信託の塩川
三尾利未、實業未之日本に授す、き、百馬鹿
の涙を筆紙す、田中伯安、田善内、赤山、鹿
田、堀内、生田、真、清、八、代、解、銀、を、郵、送、す、未、

司渡舟未橋午後二時吉山の大型船をゆふ
初堂は成りゆき移遷祭あり四時宗家の継
志合に臨む吉山大型船、塩川二尾山等
の礼として船を宗家代解船一舟ゆき、元
司渡舟より近著嘉徳魚無駄船をゆき未
市島整へ代解船をゆき

十一日

晴、杉井郡流り舟をゆき、船本の御玉川の関魚川
より未書、元司の嘴をゆき、船本より十郡
自雲より七巻より中央公論社より契約書

持巻御印の上交換畢る、吉原友人渡り
弘七回付未橋、村山ありし御書七巻指
関大より大江に五つと御書列り元家家の畢
月令にわき、四時申由田者殿に列り、同者殿
梅倉の理多合に臨む終りて高坂の寺へ未
に飲む、杉本集へて代解船をゆき

十二日

晴、矢吹者三次の仕務披露の宴あり(二十三日)以上
北巻より例の巨船をゆき、塩井潤(今、昆田路

平と未書、村山秋海の病、應し山陽の詩情
と題爲す、丹三原平松井郡法々々河出所
と、村山ゆへ池ふ道々會の後齋池ふ原大寺
又中を日信、日道々會の遺著外家寶物此
と持り来り示々々午後旅程を業し時を
移す、傳人々外然始生々物を持りて悔々、

十三日

昨朝未旅程を業々々生田七印と未書中洋
象一系妙、鏡茶子具是々原平々投筒

榎原製

高橋大洋と未書、村山秋しゆと筒す、谷村一
太郎寺時々重天尾昇、年次谷村二代齊
後天行持又勅を並々松木弘と池也列の
山井儀三の々々亦良清別来、銀の預金
三石田引出す、蓋々木十畝々外三四人
印刷今此々気勅未々二時半出社一七迄
六、今夜去の々々人更と々々蓋不十畝外衆婦人
事の余田十穂結今此後々々葉地錦水に於
飲、坊田と未筒

日の巻祝品を送り、石塚より餅米二斗を贈る事あり。

十五日

昨今朝霜あり、池水凍結、朝未融解を業す、真一
此桂次郎、小林政郎、四郎、今より未出、午後書齋
無訪、法を讀む、供んで教業、村口書店を往つて
書物代二十圓拂、日本橋より手紙を漢物より物
り

十六日

榎原製

昨朝東院祭を業す、例年の如く四喜音の礼
二祀、威見他、乾海女、精進、若菜、早稲、田子、報
の新年、難く、字をへく一箱を業し、成程、列
ら、利、昭、和、考、房、一、語、お、遺、珠、と、思、ひ、出、し、を、業、す
て、丁、馬、一、時、の、教、業、日、本、橋、に、お、と、終、ひ、に、出、し
こ、ま、く、物、書、不、在、甲、市、原、市、に、甲、子、海、法、と、法
音、向、降、り、如、お、日、本、國、寺、政、協、会、と、業、す、
光、ピ、ア、ノ、の、海、法、若、菜、一、伴、り、ん、海、法、の、音、樂
隊、見、し、ま、都、合、儀、義、之、り、補、に、揚、子、の、麻、生、正
巻、を、海、法、刊、り。

十七日

日

晴朝来音報の存行と事能今實天
 しく五山の四大侍傍と寄てり、此
 江丸印の交向直次しく、海山州、田中走
 伯来証、二時行、此年来内大匠
 寄由大匠批斥運動の仕末を詳細に
 く、事官中の法持河魁、関して大極
 の事か原因と疑のて知ることを得り
 事三印、事接、干後都集義、の去
 出、書後於此と事、五時上、物
 事、

榎原製

赴き宇都宮、鼎の古稀祝、人
 萩、冬、吳、一、定、入、志、若、所、を、微、行、台、地、り、つ、き、攝、侍
 の、居、め、先、り、く

十八日

晴朝来音報を著し、早稲田の
 事、亀山、事、二十、四、拂、の、更、り、頼、之、持
 の、考、筋、一、幅、を、指、の、此、後、四、中、の、未、拂、
 大石、理、由、果、然、由、未、ノ、ル、在、西、村、行、
 瓜、哇、事、の、コ、ロ、一、并、に、砂、糖、を、著、

也、其、甚、後、重、相、他、之、来、前、高、田、中、峰、
本、坊、余、日、清、印、創、社、去、を、能、く、事、件、の、開、し、云、り
の、決、ち、し、事、の、報、き、事、の、決、意、を、行、い、ん、為、の、採
議、時、時、中、後、今、に、再、次、を、要、求、す、要、望、し、高
日、重、後、今、日、状、況、を、詳、細、に、述、き、事、の、決、ち、を、辭
職、を、述、ゆ、ん、と、す、日、清、を、缺、く、の、氣、味、也、也
の、所、思、あ、れ、り、幼、品、任、と、決、す、云、日、清、去、
リ、特、別、の、也、特、産、産、業、五、冊、貯、り、集、め、
午後、不、を、得、七、強、強、を、筆、す、早、大、長、し、
田、中、光、顯、伯、の、年、前、号、撰、は、是、觀、と、す、
稗、原、製

と、報、し、来、り、予、七、登、校、を、ゆ、す、人、の、為、の、揮、毫、
二、時、の、教、策、、飲、茶、を、も、饗、客、を、後、日、先、
リ、難、所、を、字、の、也、り、あ、り、高、野、君、在、塚、三、
世、刊、也、

十九日

也、云、日、清、の、為、に、居、り、特、別、の、本、小、特、産、産、業、十
冊、に、自、著、す、又、村、一、大、字、も、余、の、他、業、二、種、の、種
を、掲、げ、り、此、四、紙、を、數、を、寄、り、取、り、市、島、就
三、と、も、未、書、す、小、久、江、年、一、十、五、坊、余、の、日、清、印、創

社長辭任の行届事柄と語り、十時登校田
中克勤側室を伴ふ未親、校内踊、武道
演、テレビジョン、演劇場物段、あり由し十
二時大隈分館、午会を興りてあり、午会後、
市田半鐘と合し、余の辭任の行届、つき所
代を演し、其後解を求むとゆふ、後演、四
下演、演し、梨果一画を演じあり、又村一太
郎吉田和男おとと未書、和歌山新神田林
大りしと未書、池永康方り、山色りし
返本、山下今関市役、演じとありし、

榎原製

古山大隈家、及物と帯留、演じありし、七村
来、谷村一大、部と、空舟、物段、と陣列の
大雅堂、貴、皇玉、目録、并、演じありし、と
り来、演、演、の時、休、未、演、ありし、と
演、演、演、

二十日

所、丹兵衛、原、来、と、塩川、と、野、来、山、四、演、演、
十時、と、演、演、演、演、演、演、演、演、
の、演、演、演、演、演、演、演、演、

書度井一の為葉毎百重態を造り、中間を
一表世を造り、心と托き、積物も今本紀本
二時より四時迄散葉、大張巻、而もを造り
す、至五十四回、昂と交付、文三本、二三家より
傳りてある、其の四半、別荘と名付、別荘

二十一日

晴、朝来押、毫十枚、播成、津山、杉山、枝
長の為、十枚、市、時、乾、三、の、比、と、四、枚、半、込、取
育、心、の、為、三、枚、は、の、ろ、ろ、の、為、あ、ま、く、取、

榛原製

今、く、例、年、の、も、(廿五日)田、下、政、次、
今、井、一、介、上、中、喜、永、次、山、田、傳、也、と、未、書、
午後、上、中、喜、永、次、身、物、と、器、と、隨、書、二
種、と、器、と、市、時、乾、三、敷、面、三、枚、郵、足、中、
野、鉄、平、と、未、書、為、浮、利、喜、大、中、卷、馬、の
報、と、摘、す

二十二日

晴、津山、宝、種、女、子、校、揮、毫、十、枚、郵、送、所
島、田、市、原、次、と、餅、米、二、斗、別、来、阪、上、山

花より注射を多く、阪上、阪下、山内、山外、
皇と賜り、午後出遊物を授け、台湾、
柳、伊豆と送り、在台北山中進んで、
華、七空の七、垣内、道、念、の、漢、刺、
格物、創、立、の、此、の、余、の、天、河、河、
中、の、後、片、山、利、久、山、田、信、行、錦、織、某、志、
曰、原、刺、立、の、今、の、忘、念、の、念、を、授、け、す、

二十三日

頃、今、刺、立、の、子、弟、降、誕、植、木、を、奉、り、移、す、防、雪、繩、を

施す、立川、佐、藤、の、七、面、鳥、の、焼、肉、を、送、り、
来、り、半、分、は、送、り、贈、り、の、送、り、の、
光、を、授、け、の、送、り、の、教、養、所、を、奉、り、
祝、酒、を、飲、む、の、來、丹、美、兄、才、由、玉、の、族、
柄、を、奉、り、の、飲、む、の、廣、田、金、松、の、計、利、の、
近、衛、馬、磨、公、三、十、年、祭、(一、月、二、日)の、
通、り、來、り、の、商、務、所、治、古、の、條、崎、の、
書、物、自、授、け、の、贈、り、來、り、の、山、中、植、
の、來、り、の、宇、都、宮、直、の、送、り、の、梨、果、を、
送、り、來、り、の、予、の、授、け、を、授、け、る、送、り、

之日本利来、又吹法塔技家、の富、光を臨み、
皇山、の由、の、交付

二十四日

日

時、午、刻、十、時、の、時、印、創、令、代、の、儀、令、を、い、ら、せ、
本、事、紀、南、六、分、を、決、す、重、後、漢、初、の、家、重、
任、余、の、能、而、金、額、四、百、六、十、八、兩、七、十、五、分、
金、子、四、百、五、十、兩、三、十、刻、也、及、の、獻、去、
塩、川、を、贈、す、而、海、市、の、物、を、
七、面、島、を、宗、家、の、贈、す、山、田、法、心、
梅、房、の、金、指、瓦、去、の、き、吊、枕、を、去、す、
而

榎原製

後、況、を、一、次、を、去、す、前、田、院、の、葉、代、
金、廿、百、兩、送、す、之、り、を、書、物、代、の、内、五、
十、兩、拂、入、
鴻、の、八、二、并、乙、利、来

二十五日

大正天皇御祭

時、朝、未、始、に、王、者、を、山、田、推、
の大、卷、并、島、一、代、宗、利、蓮、早、大、理、工、部、建、
築、部、に、
辰、二、玩、具、陳、列、を、去、す、と、一、家、を、
高、り

出陣を求め坂井田舎来揚、戦後中浦、高橋
 濱三土田、西六、おとせ、山中推一、遊書
 を及ぶ、桂泰花、来書、陸中、教授、お
 命と敷、散策、兜の者、物を、梅、石、家
 三、り、あ、ま、う、た、ら、の、子、ま、じ、子、を、齋、し
 来、の、江、崎、坂、本、小、久、江、奥、田、等、と、酒、を、高
 七、十、の、服、部、系、者、と、か、ら、漢、列、未、既、と、廣、本
 と、魚、類、の、漢、物、列、未、早、考、礼、輻、輳、夜、こ、入、り
 吉、田、森、福、と、早、の、考、而、列、来

二十六日

吹、藤、利、吉、大、ら、の、計、列、の、(廿三日、死、五、四、日、昔
 お、武、吉、山、崎、場) 殿、部、系、考、と、ま、未、言、富、と、泉、次
 者、と、為、替、入、者、此、を、考、え、有、徳、法、心、屋、の、人
 形、袋、袋、人、と、出、陣、す、ま、き、家、考、考、冬、種、人、形、考、考
 歌、を、採、出、其、目、録、を、出、つ、元、引、紙、の、類、を、も
 八、十、四、百、の、の、約、向、類、金、五、百、山、引、出、来、珠
 珠、谷、云、お、代、十、八、日、五、十、日、辨、二、百、日、品、と、交
 付、二、百、山、内、お、と、海、不、思、兼、二、冊、甚、漢、の
 山、中、推、一、郵、也、(此、の、名、は、漢、兼、儀、二、つ、き、委

員長田中節造士と今と委實篤托の由面判り
和名文三斗の曰人字係をも事終る迄列く出
べき人形六十数並に包替り并二日夜を心へ出
空柳子と物を貯り来り。

二十七日

明、空葉口も就と互物相列来春陽を
物をもとの七年の市時一鏡三より高書列の午終後
山、山師と列り春深利長六の春儀と列り
神式と七式と一のりるとありし、二時と一一般合
舞者是拜三時師を削り、明も後江口基

榎原製

成妹と此と来訪、佛人エロ一の空と有歌と終
し、置酒を夜より別る。

二十八日

明、相来狂歌を兼す、龜山有書三又頼三村
書前物代のわ三十九日海を、候上と物も
貯り来、先是越進を込め、高崎守の庄
坂井田系あり、陸列のあ家元人形並
六十七點一并目紙交付、文行書を訪り
書物代三十四日拂、凡月、飯、均達、書、書

横石鑄百印(近印譜)と雖も地味なる寺の
元重と物と寄るとも、祝賀の件より口を回
す御座り、馬出文と申す、丁酉を、難法
世論講し、時を費す、

二十九日

晴、風、坂に献ま、馬橋、幸城代、研、印、税、名
る、御、銘、お、内、事、十、日、校、正、所、儀、大、石、記、因、こ、其
お、森、脚、束、談、二十日、お、利、子、交、付、六
巻、龍、骨、董、小、品、持、六、六、朝、佛、木

榎原製

所、雁、渡、り、象、牙、の、器、と、辨、ふ、廿、五、日、御、法
ま、ち、田、内、子、三、交、付、十、時、お、出、交、り、物、を
御、つ、と、二、十、五、日、御、入、お、付、甚、と、危、の、御、事、を
を、辨、ふ、市、外、を、祝、の、衣、電、車、往、復、利
る、家、婦、ふ、と、お、皇、女、子、御、命、名、式、あ、り、お
仁、の、御、名、継、志、と、稱、し、奉、り、お、田、恒、位、在、久
と、お、御、志、利、の、御、法、後、奉、り、お、物、を、御、つ、と、三
木、武、ま、と、お、尊、尊、品、を、奉、り、七、年、の、御、三、葉、じ
九、日、御、の、終、り、一、年、の、御、福、安、を、お、祈、す、杉、山
宇、三、ら、と、お、御、志、ま、同、く、お、祈、り、と、お、物、を、御、つ、

来り、

三十日

晴、朝来人と儼のし飾を揚ぐ、阪上は花見
り例の注射を施す、山宮今集少四回能本、電
山書、この為の是匠、書意代致金十回海す
大石理用より謝色判の午後散策、新生と
波谷の面りの帝況を乞へて聞く、新島書
栲段二と造筆と送りたる海色判の三川
栲谷の物を贈る、海村真次と伊勢海志を

榎原製

晴、賀田以武と七日、花は八、雨あり

三十一日

晴、今朝感の月の氣味あり、例刻起床、書
務急と余の人形の預り、証未の、藤田修
造と自家の夜流をぬめり、龍徳三冊刻
未、栲煙雜誌を讀み、昨日を費す、酒を炙
汲、来り、山刊大隈重行文者、第三冊を
贈る、山書、世のあふ山子の詩、栲煙雑誌
成る、家族中、内印、山書、よる、及、内子

いさり幸い又健康よし送迎年の月長と
皆も調ふ、之を本年陰厄の大幸也

榎原製

六

昭和八年起居摘録

昭和八年七十四歳

一月四日例三休、熱海へ赴く、十日間滞
在、北河志まきま、雅報を筆下し、又早大
学園物知社家報を筆下し、坪内逍遙
と経復、逍遙余の著めるあま山子の歌
書三枚と栞毫あり、又内倉久寛井
上辰九郎と経復す、石坂三郎の歌
うし侍人田色松坡と村賣剣と交る。

小宮八雲の神田日本、細川竜平の「日本寺録」を「國経傳史」と改題、高田中島、来つとを撰とす、堀内とをたし出版部の改革、刈野とを協議す

一月十日、柳橋、柳克亭、印刷四社連合の集、一月、今の新年、高田、高田、四社聯合、印刷代の値上を案し、十九日、四社、長谷、松法社を、麻心、松井、四日、十、大、雜誌、社、告、を、併、し、歩、同、と、松、き、予、し、と、値、上、の、う、ろ、う、と、決、す

一 週刊報日の編、序、酒と個性の隨、著、一、の、編、を、定、め、す

一 雑誌「本州」の精進漫遊と定めす

一 書誌学会の成立、法、令、と、臨、む、一、月、廿、六、日

一 二月初頭、風、潮、に、罹、り、四、五、日、閉、居、す

一 本州に三月、葬、の、隨、筆、を、定、め、す、亦、早、稲、田、の、報、に、物、知、法、家、録、を、五、回、の、行、を、定、め、す

一 早大出版部、創、刊、を、以、て、余、主、幹、と、し、て、高、田、中、島、を、執、行、長、と、し、今、次、高、田

隠退、今後の任官を田中流大徳中、一任す
るに付余も評定す

二月八日内子病臥、昨突の暑をんことを願
ふ、一たびを看養婦を遣ひ、手局とす

十

二月九日御友田代亮外死、其の事我
日京南部郡長、以りて死す。

二月十三日星々宮、奉養を司、其の事
印刷の重役、辞任、つぎ、慰勞の事、あは
ひく。

榎原製

一 徳志守とめ、み鼓といふ、きさ、其政助の
誼、漢をす。

一 柳橋菟、清：印刷聯、其の事、月令を
いふ、き、頼、い、事、嘉、道、大橋、お、大、り、と
抄、吹、二月、林、下

一 二月廿三日、地、葉、一、一、庵、を、文、藝、書、奉、行、
定、あ、り

一 印刷味、鼓、吹、の、原、形、を、ブ、ツ、ク、ド、ム、代、家
す、本、州、に、石、を、起、す、る、随、筆、と、定、あ、り

一 三月六日、早、大、出、取、部、部、員、を、合、す

先方の挨拶をうす

一 余の出羽部隊長としての金二萬圓の慰
労金をうすく供し部の主催國部会
らうとして毎日二千圓の月割の
一七受くる事と定め取証書を受
領す

一 内子病氣回復の事又ある事を定めて
この新隊へ返すこととする

一 三月十一日書法者会と歸る回者
別有用語を協定す

一 三月十日主婦と友社中を柳克彦と
相談余印刷社をくして出度輪
旋す

一 三月十七日春城会を木村俊介君が
いしく二十日未会を席上余の地
養の出羽を提議する事あり予
乃ち諾す

一 左の回者并書畫を婚め

松平冠山 深元 愷 若山 若山 若山
若山 若山 若山 若山 若山 若山

の自筆字を

猪山粉本朱文公像、和七拾曆、文

昆草子元波山園山新末福川待、英一修

短冊并画像、大公而射雪、泉穴

等

一 文彦春秋社とて人相迄遠傳とあり

へ目く托さん、木堂、板垣、滋野、星

堂、英世の五、海、約、中、十、教とあり

了

一 静嘉堂文庫とて、日庫花秘籍志

榎原製

廿五冊五帳と云うて、了、未、近、記
のこゝ也

一 三月廿八日、野花抄り、とて、全、七、七、午、月
借、々

一 藤原、あ、み、淡、田、徳、別、川、上、浩、二、中、抄、
山、義、雄、の、知、人、死、志、

一 東都、板、本、合、の、法、令、十、四、年、大、隈、彦、東、山、堂、
海、の、形、半、粒、の、形、と、碑、を、立、て、ん、と、一、四、月、九、
日、降、奉、命、の、式、を、行、お、あ、ま、の、到、り、奉、奉、
施、經、の、縁、あ、あ、の、も、行、か、す

- 一 四月の書法号の今の人と早稲の古く聞者
既く近く古刊本と出し七日迄
- 一 家系印の目録を載せし 四月七日
- 一 秋末お茶屋山との向の律詩額面
を懸けし者あり揚々
- 一 春の燕の初鳥文三を巻く土地の住
界に抗しつ四月十日
- 一 限の今と跡より上浪況をきく 四月十日
- 一 大隈別邸と終子夫人の病を別ふ 四月十日
- 一 左大改回志砂川雅岐の歌列る 四月十日

榎原製

- 一 書徳の今の人と根津嘉一やと記を
田中支山伯田花の古く死とえり 四月十日
- 一 家系書画の内書子帳子杜志の目録を
心
- 一 大工を備ひし取の地震に後入る者数個
所を修理す
- 一 廣島山陽文徳殿攝替今と家系
の古書を多くぬめり先哲遺墨を集り
冊を定むるなり
- 一 五月三日の文の場合の特種講義をい

くも、庶民全融問也、うつき大花、外大
・花、其他の事、事、者の、海、深、人、を、ひ、く、き、
吊、ま、年、す、

一 九物、雷、集、軌、道、今、此、其、の、書、ま、目、録、
市、か、池、市、山、湯、の、文、を、ま、く、持、録、
を、以、つ、七、金、ろ、山、と、ま、く、ま、す、

一 五月、十一、日、三、日、河、舟、名、古、屋、市、に、行、
國、書、館、大、学、と、い、く、こ、つ、き、十、日、夜、汽、
車、の、と、車、東、と、の、り、す、

一 今次、の、名、古、屋、大、海、真、福、寺、の、回、覽、

回、者、と、い、徳、川、家、の、名、古、屋、を、見、名、古、屋、
城、を、見、又、執、田、の、宮、を、訪、れ、て、其、所、を、見、
見、遊、と、日、本、ラ、イ、ン、に、遊、ぶ、

一 三、重、全、島、連、ら、一、と、と、創、業、卅、年、紀、念、を、
回、覽、白、山、本、神、皇、正、統、記、四、冊、の、數、本、
を、六、六、七、日、に、

一 五月、十七、日、大、隈、熊、子、死、云、廿、一、日、告、お、成、を、
行、ふ、

一 書、物、名、記、の、總、書、一、冊、を、守、り、す、

一 中、國、武、子、傳、傳、名、古、屋、の、名、古、屋、の、名、

ききりきり都紀人とお集り候へ今す 五月十九日
 一 大須其福寺書庫并蓮台を浄潔員を諸可
 一 田中元野伯も西山宗因の元鳥川様を
 本と字をせり候。

一 五月廿六日書法あり今の宋本海州を之る
 一 実業この本社の嘱と及し「延年像片影」
 三ヶ月六回に之り字を新す

一 人形ゆ久保田依中々の考の一文を採し
 字あり
 一 東京朝日の属をより徳市高野の書
まはる春秋の人物を拾ひて其をよりし所全七十四日

標原義

五十年を評す

一 本州へ酒茶漫談一行を定めす
 一 六月十一日原巻三郎の某ヶ所にお在に候
 一 之ん所へ向候内田中より
 一 芸園物故注家採り報に連載九ヶ
 月こころを収めし所八十数家、こころを
 華と収む。
 一 九州電氣鐵道今純くも変斬る尾美術
 集成回線を今よりある、余の地華山陽
 を標記するよきなり

- 一 大隈能子追憶記と文藝協会の雑誌に投ず
- 一 六月廿四日の印刷会社の日誌をひらき
配由六分と決す、野花紙のことも借入の
午日返す
- 一 六月廿八日印刷会社に函を携え美陳列を
する一々説的とし今更に一嘆を待す
- 一 モーリスの日本芝の目く「と評し雑誌
本中に投ず
- 一 中央公論の囑と序「早稲田の田圃」
時代を稱し七のうら

榎原製

- 一 大隈能子の遺物として紫壇の重版
外一二の品を貯る
- 一 依木住徳寺田社主の編纂に係り中書
教科書に余の遺著「や塔」の二篇を
採録す、保科春一の圓語教科書に余
の稿の二篇を収録す
- 一 出京中の田中光顯伯を志山に訪ふ
- 一 七月十日貴族院副議長とてり松平
伯正と満洲に芸術探検をなさんと
す、徳永博士と共に「根えん柳色亭」

榎相

一 飲志

一 出政却負とて余の退職のつぎに念の真
一 昔考の心花冠とて奇を以てす

一 グックロム社の庄司淡六余の遺筆を出版
ことと清く撰す

一 七月二十二日榎坂相崎の校友会にて
の校友会にて臨終の移葬墓所を
申す

一 雑誌モダリン日本、是の一稿を投す

一 平天出政部五十只の教授備忘録の女子回文

教科書に余の遺筆を家庭に合心
術の一考を採録す

一 書誌学人今幾徳又異回堂考に就ての
後話筆記と考す

一 八月九日とて防空救済習習娘も未嘗
馬のことゝつぎ終のうしを
市街に出心実地を視察す

一 野口英世傳の評論を著し、東京
医学者校長の需に答す

一 八月十八日お根に遊び山頂を
お茶の

道改、自動車と記す、
道改、自動車を記す、
と改めしゆら。

一 金井延海士山田穀城の訃訃。

二 八月中炎暑と記す、
備録に没頭し略す、
合、春城代碑記と題し、
精産登雅集と題す。

一 東京講演会、
と題し、
英文大日本に載せしむ、
日本女性と

榎原製

口授筆記せしむ、九月七。

一 九月五日、
早稲田号報社と

電氣鐵道、
此と二つ同中央、
此と二つ同中央、

辭稿の到来
辭稿の到来

一 森本鐵名の山文中、
山陽加筆の詩行、
阿世と池、
中を編入

一 版新嘉香の新著現代心天新海に余の随筆を評し、案件以来の大家と云ふ、随筆中より書斎の一角を収録す

一 京都の金港堂出版の四種後本に余の随筆中「今」の一角を収録す

一 丙午吟作三ヶ山陽揮毫陸放翁七古五詩の横披中数紙散佚各詩全分より取り出し、副巻を複製し、余の全詩を綴せしむ、併に跋を記す

一 中央公論の嘱り受けし「人間道進」の一角

右巻より謝金八十圓別未

一 春城代辞録の出版を中央公論社に托し、契約を交換し、五千部換印を捺す
此巻著、頁数六万、定価一圓八十銭、印税料五分と定む

一 十月十五日春城代同人と速見城子園に遊び、金上八階殿を觀つ、十七日偕志、今日人と墨澤に、植竹の宗家の別荘に遊ぶ

一 十月廿九日回春館協会同人と奥秩父へ

長瀬三郎

- 一 山崎五三の訃に接す 十月三十日
- 一 十一月十一日十歌今同人と夜行して東京を別し十二日朝伊勢山田に下車し香巻谷南越、赤目の四十八滝探訪、大住寺の佛像を乞ふ、京都に入る。
- 一 京都滞在中、下村正六の邸を訪問し、終焉院の御園を觀し、三尾の紅葉を賞す。
- 一 十一月三十日日本回産協会総裁伏

榎原製

見宮殿下(二)に云々 帝回未ニルニ於
七日清印創會社ニ對シ表彰状
の親授を乞ふ所且の賜答あり

- 一 十一月廿七日小幡屋敷寺下製茶會成り、一
部定價二圓八十銭印税あり 知人三十
家ニ配本

- 一 十二月七日代辨録成り、表紙會名より二十
八名に送奉、外十数部知人に贈送
- 一 池永道雲の子孫池永原大印其功

其の家上登と推す来り示さる

一 廿二月十七日田中走動向未訪去以爲
流す趣二日早稲田大寺の向冬観
午時大隈令飲に干密と總す事也

其の

一 相馬御風の馬鹿一万人を評し実業し
日本地を提す

一 去年一月十日後高野新多比三居候
此屋に人形展覧今を聞くと其
家花六十七粒を他も存

榎原製

一 皇太子殿下御降誕

一 日清印創今比本季能由六分と決す
一 蘇浮利妻を今比の計利す

一 本年閑業を弄す殊に多く敢て
有将料稼きを弄す人あらずとも各所
々々客を今比の謝を今比の無人とす
先後酒資に費すハ幸と云ふ事
歟

一 前月都下の印人高其其家の五十年祭
を記す其持に店一家の其の其其其其

印外敷非出陳

一 日清印刷會社重役本朝入と満州入
の二乘し社長を託中元とせしが重役
中川留めこのありじりとしし未年六
月迄留任と約しと亦再選マシ

・ 甲信の各報の年考の予のハる者(一)の
一
社と考マシ

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

榎原製

以下全て

白紙

標原製

